

脳神経内科

(特色)

複雑系の代表である脳を中心とする神経系の解剖や機能の現段階で明らかになっている知見を踏まえ、脳や神経に関わる多くの疾患の診断と治療および病因・症状の発現機序とその意味の研究を行うのが **Neurology**(日本では神経内科学)です。

当院は日本神経学会の准教育施設であり、一定水準の研修が可能なレベルを維持しています。当院では脳血管障害の多くを脳外科が担当しているため、多少地味な印象はあるものの、多くの大学を含め、他院では見られない **Neurology** を経験することができます。また総合内科医師の協力が得られており、内科救急一般・精神科との隣接領域の経験も可能です。

研修受け入れ期間

4 週単位

研修の人数

1 ヶ月に 1 名が基本(2 ヶ月なら 2 名)

研修の目標

- ・ 神経学的診察の方法とその基本的解釈
- ・ 神経救急（意識障害・脳卒中・てんかん重積・脳炎など）の処置と治療
- ・ 神経変性疾患・神経免疫疾患・末梢神経疾患・筋疾患の診断・治療
- ・ 脳卒中の急性期診断と治療および慢性期治療
- ・ 自律神経疾患の検査・診断・治療
- ・ 電気生理検査（脳波、誘発電位、筋電図、神経伝導検査）の施行と解釈
- ・ 神経画像検査の指示の仕方と読影(MRI, CT, SPECT, 血管造影, 超音波検査など)
- ・ 神経リハビリテーションについての適応と計画と評価
- ・ 脳外科的加療の適応の判断
- ・ 遺伝子診断の適応・説明
- ・ 医療福祉制度の理解と書類作成

しかし、実際の問題として、わずかな初期研修期間で多くを望むことはできません。すべての研修医が神経内科を志すわけではないことを踏まえると、上記の目標すべてを満たすことは困難と言うほかはなく、実際、神経内科専門医ですら、神経内科領域全般に通じることは不可能な状況になっています。

最低限学んで欲しいのは(提供目標でもありますが)、

1. **Neurology** とはどのようなものかー複雑系が対象＝自らの基盤の不断の点検

2. Neurology の考え方—一対一対応の考え方の限界
3. 実臨床における意識障害の初期診断
4. 何処でも役に立つであろう基本手技—髄液採取など
5. MRI の読影と撮像の指示内容の意味
6. 最低限知っておけばなんとかなる神経解剖学的知識
7. Neurology 周辺の最新の流れ—文献検索の方法と統計的知識(文献の信者と
ならないために)
8. 正しい心理検査の行い方と解釈
9. 電気生理学的検査の原理と応用
10. 倫理観